



# J A U W

F U K U O K A

(一社)大学女性協会  
福岡支部会報  
2024.3.1  
発行  
第45号

このたびの令和6年能登半島地震により被災された方々にお見舞いを申し上げますと共に、犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表します。

## 大学女性協会 2023年度8月例会(講演会)

転ばぬ先の知恵 ～人生楽しく、健康で・・・アンチエイジング～

日 時:2023年8月27日(日)13:30～15:00

場 所:高取公民館

講 演:転ばぬ先の知恵 ～人生楽しく、健康で・・・アンチエイジング～

講 師:日本病態栄養学会 学術評議員 石井妙子氏

主 催:大学女性協会福岡支部、高取校区社会福祉協議会



講師の石井妙子氏は、長年、管理栄養士として総合病院や大学などに勤務され、関連学会の役員等を歴任された専門家です。現在も栄養指導や訪問診療に同行され、元気にご活躍されています。今回は、これまで蓄積された経験をもとにお話をいただきました。

内容は、健康寿命について加齢による筋力低下から始まり、健康から要介護までのプロセスとフレイル(虚弱)の状態、低栄養やメタ

ボ、ダイエットと続き、その後、「食事内容と身体と病気の関係」をお口から腸「第二の脳」、肛門「うんち」までを具体的に説明され、さらに、睡眠や口腔ケアなど多岐にわたりました。転ばぬ先の知恵は、行動変容のアイデアがたくさん詰まっていました。講師の話術に参加者は、自分の身体や健康に過ごすためのポイントを興味津々で、楽しく聞いてあったことが印象的でした。筋力低下をペットボトルのふたが硬く感じる事で知る。食品の形態で食べやすいや食べにくいものがある事を知る。身体の状態を知り、対処する方法。食べやすくするには、とろみ食材の活用をする。食品の選択、腸活、「うんち」で健康チェックも大切だと改めて考える時間でした。「食の細かい高齢の食事についても、好きな食べ物を聞いて提供するや食事の場所を変えてみる、エネルギーの多い(例:マヨネーズを使った料理)を提供する。」は、参考になったと思います。



終了後、参加者の感想として、「親にさっそく話してみます。」「明日から必ず朝日を浴びます。」「ちゃんと朝、歯を磨きます。」「知らないことをたくさん教えて頂きました。」「講師がチャーミングでした。」「とても良い講演でした。」などが届いています。

今回の参加者は、もともと人生楽しく、活動している人たちが多かったように思います。

皆様の健康寿命が、ますます延びますようにお祈りし、報告いたします。

(松藤泰代)



## 「災害の記憶をつなぐ」発刊記念講演会

災害の記憶を風化させずにつなぐー平成17年 JR 福知山脱線事故から令和6年能登半島地震へー

日時:2024年2月10日(土)14:00~15:30

場所:高取公民館

講演:災害の記憶を風化させずにつなぐー平成17年 JR 福知山脱線事故から令和6年能登半島地震へー

講師:鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 救急救命学科 准教授 久保田千景

主催:大学女性協会福岡支部、高取校区社会福祉協議会

大学女性協会は、この度 2023 年に「昭和・平成の災害の記憶を風化させないために、次世代へ語り継ぐ、発災直後の体験・その後の生活対処・支援・さまざまな気づき・防災対策・被災者支援・復興事業に不可欠なジェンダー/女性の視点からの発言集」である『災害の記憶をつなぐ』を発刊いたしました。その中には、福岡支部会員による分担執筆もあります。

その分担執筆で講師の久保田千景氏は、救急医療等での看護師としての経験、そして大学では看護師や救急救命士養成課程での教員経験のある方です。この度発刊された『災害の記憶をつなぐ』では、標題「ご遺族へのケアと支援～JR 福知山線脱線事故(2005年)の救援活動を原点に、看護師として」の項をご自身の救援活動の経験を基に執筆されました。

多くの方がお亡くなりになられたこの事故からご遺族への支援の必要性について実感され、また病院においても患者さんのみならず、そのご家族にも支援が必要であるという認識から大学院進学をし、家族支援専門看護師という資格を取得されました。ご講演内容は、ご執筆された内容の背景や詳細について、そして救援活動の経験を風化させずに令和6年1月1日元日に能登半島地震でのご遺体安置所での家族支援専門看護師としての活動につないだというお話がありました。

未曾有の災害が起こっている昨今、過去の災害の記憶を風化させずに、次の災害に備え、つなぐことが必要であると思いました。



## 男女共同参画ネットワーク事業 2023年度参画ネット講演会

開催日時:令和5年12月16日(土)13:00~16:00

開催場所:男女共同参画施設 アミカス 4階ホール  
(福岡市南区高宮3丁目3-1)

参加者:63名

内容

テーマ「ジェンダー平等で地域力UP」  
～みんなで考えよう男女共同参画の進め方～  
(実行委員の集合写真です。)

プログラム

- ① アンケート結果からみる福岡市の男女共同参画推進組織の現状について
- ② 校区の事例報告  
飯倉校区(早良区) 草ヶ江校区(中央区)  
東箱崎校区(東区) 別府校区(城南区)
- ③ グループトーク
- ④ 全体共有・まとめ



・参画ネットメンバーである「ジェンダー平等福岡市民の会」は、2022年度「校区の男女共同参画活動に関するアンケート調査」に関し、福岡市148校区を対象に実施しました。

アンケートの結果から、見えてきた課題が下記の通りです。

①メンバーの高齢化 ②担い手不足 ③活動の形骸化 等々です。

「そもそも地域でジェンダー平等が進むとどうなるの?」という疑問から「こんな地域になったらいいな」という未来像まで、参加者同士で対話をしながら、よりよい地域にしていくために、地域でできることを参加者全員で考えていきました。

当日は、小雨降る寒い一日でしたが、参加者の熱気で大変な盛り上がりでした。

問題解決の一端が見えてきたようです。

## 大学女性協会福岡支部 秋のイベント報告

2023年11月12日、秋晴れの日、大濠公園内の福岡市美術館に7名の会員が集まりました。そのうちのお一人は、その日に入会を申し出てくださった新メンバーで、大変嬉しい時となりました。

福岡市美術館では、特別展と幾つものコレクション展が開催されていましたが、私たちの一番のお目当ては「九州の女性画家たち2」でした。近現代美術コレクションから九州ゆかりの女性画家(必ずしも九州出身というわけではなく、何らかのつながりがある)7名の1970年代以降に制作された作品展でした。九州派に属した大黒愛子や今も活躍する大浦こころ、栗野よう子らの作品をゆっくり自由に鑑賞しました。

「女性画家たち」と銘打ってコレクション展が行われるということは、今でも男性画家に比べ女性画家の作品が取り上げられることが少ないということの表れでしょうか。女性画家に限らず、芸術に携わる女性を応援したいと思います。

近現代美術の「日本画に見る人物表現」展と「コレクションハイライト」として展示されていたミロやダリといった著名な海外の画家の作品や草間彌生や田部光子の作品なども鑑賞し、印象的な塩田千春の「記憶をたどる船」とインカ・ショニバレの「桜を放つ女性」の前で集合写真を撮りました。

インカ・ショニバレはナイジェリア系のイギリス人で、この作品は女性にエールを送っていると聞きました。

参加した7名は、それぞれの興味や体調に合わせて、それぞれのペースで作品を鑑賞することができ、芸術の秋にふさわしい支部のイベントでした。

絵画鑑賞の後は、食欲の秋を楽しむべく、美術館内のレストラン、「プルヌス」でお昼をご一緒に。支部長の萩尾さんが下見と試食、そして予約もしておいてくださいました。お勧めのミュージアムランチをいただきながら、おしゃべりに花が咲きました。

ご都合がつかずに参加が叶わなかったみなさま、次回はお目にかかれますように。

(守山 恵子)



## 《2023年度 大学女性協会福岡支部活動報告(6月~12月)》

※公開講演会、秋のイベント以外の活動をご報告します。

### 国内奨学生募集

一般奨学生・社会福祉奨学生・安井医学奨学生の募集があり、6月初め、下記7大学学長宛に応募依頼の文章を送付致しました。



・九州大学 ・福岡女子大学 ・西南学院大学 ・九州工業大学・北九州市立大学 ・中村学園大学 ・福岡教育大学（順不同）

8月末日締め切りまでに、3大学の学生さんより応募がありました。

・九州大学 ・福岡女子大学 ・西南学院大学

9月初め、本部へ書類を送付致しました。

10月15日 本部にて選考がありました。残念ながら今年は、選に外れました。

なかなか興味深いテーマもありましたので、来年に期待したいと思いました。

### 西南学院大学留学生別科入学式

日 時:令和5年8月25日(金)13:00～

場 所:西南学院大学チャペル

※20年前から入学式及び修了式に出席させて頂いています。

コロナの間は、中止でしたので、今年は、4年ぶりの開催でした。

アメリカ・イギリス・フランス・デンマーク・ベルギー・カナダ・中国・香港・台湾・ハンガリー・フィンランド・ドイツ・アイスランド・インドネシア・イタリア・モロッコ・ノルウェーの留学生70名でした。

日本のことば、色々な文化、地域の行事を楽しんでほしいと願いました。

### アジアの子どもと女性教育基金の会支援

・賛助会費(10,000円)支援させて頂きました。(10月27日振込み)

(役員会有志による寄付)

榊谷会員のご縁により始まった「アジアの子どもと女性教育基金の会」支援です。

折角のご縁を次代へ繋ぐために、今年は、有志一同より基金支援をさせて頂きました。

アジアの子どもたち、ひいては、世界の平和を祈りながら……

### 暴力追放福岡大会

(第32回暴力追放福岡県民大会・第10回暴力追放福岡市)

開催日時:令和5年11月9日(木)14:00～15:30

開催場所:東市民センター なみきホール (福岡市東区千早4丁目21-45)

主 催:公益財団法人福岡県暴力追放運動推進センター・福岡市

共 催:福岡県警察・福岡市暴力追放推進協議会・福岡県

#### プログラム

・オープニングコンサート 福岡大学和太鼓部「鼓舞猿」 福岡県警察音楽隊

・主催者等挨拶

福岡県暴力追放運動推進センター名誉会長(福岡県知事)

福岡市長

福岡県暴力追放運動推進センター理事長

福岡県警察本部長

・表彰式

・大会宣言

福岡市暴力追放推進協議会会長

※暴力団の壊滅が現実のものとなるように、開催されるものです。

この大会では、暴力団排除の重要性を訴え、暴力団排除機運の高揚をはかります。

大学女性協会は、この大会の当初より参加しています。

## 健康に大切な“食”のはなし

テーマ：英国の女性科学者 Elsie Widdowson と 日本の栄養情報

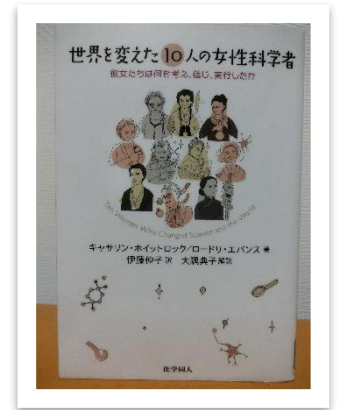
今回、健康に大切な“食”のはなしは、研究者がどのように関わっているか。英国の女性科学者を紹介し、日本の栄養情報も記載したいと思います。

『世界を変えた 10 人の女性科学者－彼女たちは何を考え、信じ、実行したか－』

キャサリン・ホイットロック／ロードリ・エバンス 著

伊藤伸子 訳 大隅典子 解説(株)化学同人 p260～p284(2021)

この本には、マリー・キュリーを含む 10 人の女性科学者、世界に大いなる貢献をした女性の生涯が詳しく紹介されています。



英国 栄養の科学の先駆けである Elsie Widdowson(エルシー・ウィンドウソン)1906～2000 について紹介します。生理学者で研究職を探していたが、病院の調理室で働き、医師ロバート・マッカンスと出会う。60 年にわたる共同研究では、食品の成分分析を正確に行うとともに、無機質の代謝、戦時中の食事、栄養強化したパン、体組成、成長期における食事の重要性などを自身も含め人の身体を使

って数々の実験をして結果を出した。その中で印象に残ったのは、戦時中の配給食糧の栄養が、英国においてもっとも健康的だった点と複数の児童養護施設での研究において、うまく当てはまらない結果の理由に、成長期の愛情不足が、その後の成長に影響を及ぼし、実験の結果が大きく変わる場合があると書いてある点である。さらに、80 歳で新たな研究。生涯で、600 報以上の論文を発表。これら、エルシーが行った栄養学のさまざまな実験を足がかりにして、発展していった。さらに、日常生活における食事に対して、現実に即した、確かな情報に基づく提言が出されるようになった。と記載があり、また、97 歳まで生きたエルシーに、自分自身の食事と長寿について尋ねられ、こんな風にこたえている。「バターと卵と白いパンを食べています。身体に良くないという人もいますが、私はそうは思いません。もっとも、果物と野菜もたっぷり食べているし、水もたくさん飲んでますよ。思うに、私が長生きしているのは、遺伝によるところが大きいです。母乳で育ったことも影響しているかもしれませんね」と記載されている。

皆さん、どうですか。読んでみたいと思いませんか？

さて、2023 年現在の日本の栄養情報として、「日本食品標準成分表(成分表)」や「日本人の食事摂取基準」「食事バランスガイド」「食育ピクトグラム」、また、国立・栄養研究所などの HP で情報を公開しております。これを機会に、バージョンアップをしてはいかがでしょうか。



本を読んだ感想は、個人的には、身の引き締まる思いがしました。また、さまざまな人に読んでもらいたい思いと、日本版のこのような本があったら良いのにと考えました。

(松藤泰代)



## 《生涯学習と大学女性協会》

2023 年夏、福岡市教育委員会は、「福岡市の生涯学習のビジョン～あらゆる学びの支援のために～」を HP にアップしました。

これは、福岡市の社会教育委員が令和 3 年 10 月から 3 年をかけ、「生涯学習とは何ぞや？」という提言をわかりやすく、基本をまとめあげたものです。私は、幸運にもその作業に関わる機会を頂きました。

生涯学習の現場にいらっしゃる方、今から目指そうとしていらっしゃる方は、ぜひ教育委員会の HP を検索して頂きたいと思っています。

1970 年代ユネスコは、生涯学習の定義を下記のように提唱しました。

Learning to know	(知ることを学ぶ)
Learning to play	(為すことを学ぶ)
Learning to live together	(ともに生きることを学ぶ)
Learning to be	(ひととして生きることを学ぶ)



この世に生をうけてよりその命を閉じるまで、人は、一生涯学び続けます。それが、「生涯学習」です。

福岡市には、生涯学習の拠点である「公民館」が各校区に一つずつあります。その他にも、図書館、博物館、美術館、体育館、レクリエーション施設、男女共同参画推進センター等々学ぶ機会が多々あります。

私は、平成 5 年より 29 年間、生涯学習の拠点である「公民館」に勤務していました。その間に紡いできた経験は数しれず、名刺を交換させて頂いた方々もまた…全てが宝物となりました。

公民館に来てくれた小学生や中学生が、長じてお父さん、お母さんになり、子どもたちと公民館に来てくれる…そして校区の中でリーダーとして活躍してくれたら、こんな嬉しいことはありません。

2022 年春、公民館を退職してすぐ、大学女性協会福岡支部の支部長の役をおおせつかりました。

「29 年間、公民館で働かせてもらったんだから、恩返しのため頑張りなさい。」と先輩の言葉を受け、2022 年から 2023 年にかけて、支部長をさせて頂いています。

大学女性協会の目標…「女性の地位の向上」「男女共同参画社会の推進」「国際協力と世界平和」を目指す等々は、生涯学習の推進そのものです。大学女性協会福岡支部では、原則、年 2 回公開講演会を開催し、その時その時のみなさまの要望を軸に生涯学習の場をお届けしています。その他支部の会報を発行し、支部の活動の紹介もしています。加えて Zoom により世界との窓口として、色々な機会を提供しています。いつでも、どこでも、誰でもその場を受け取ることができるもの…それが、まさに「生涯学習」(Learning to be ひととして生きることを学ぶ)です。

大学女性協会福岡支部は、今後もみなさまへ身近な「生涯学習」をお届けすべく活動を進めていく所存です。

私事ですが、今回 1 期 2 年の支部長を無事終わらせて頂きました。まさに「生涯学習」の集大成が大学女性協会福岡支部長でした。たくさんの経験をし、たくさんの方々と貴重な交流をさせて頂きました。支えて頂いたすべての方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(萩尾 憲子)

### 新入会員のご紹介

石井 妙子 様 どうぞよろしくお願いいたします。

---

(一社) 大学女性協会 (JAUW : Japanese Association of University Women)

1946年に創設され、1954年に国際大学女性連盟 (IFUW : 1919年創立) に加盟。

2012年に一般社団法人となり、IFUWと協働しながら女性の地位向上を目指す、公益活動を行う非政府組織 (NGO : Non-Government Organization) です。奨学金事業、女性リーダーの育成、国内外の諸問題に対する唱道活動など多様な事業を展開しています。

Web ページ : <http://www.jauw.org/>

会費

入会金 1,000 円 (正会員のみ)

年会費 正会員 7,000 円 (IFUW 年会費を含む)

賛助会員 6,000 円



福岡支部は、1947年に設立され、支部会費は2,000円です。

国際大学女性連盟 (IFUW : International Federation of University Women)

世界 61 カ国の大学卒業女性による 国際非営利、非政府団体です。

なお、2015 年 4 月より GWI (Graduate Women International) に名称変更しました。

本部はジュネーブにおかれ、3 年ごとに加盟国各国回り持ちで総会が開かれます。

以下の目的を達成するために、各国でさまざまな状況に応じて活発な活動を展開しています。また、国連諸機関に代表チームを派遣し、世界の重要な問題に対して直接発言をしています。

目的

1. 女性の生涯にわたる教育を推進する
2. 国際協力、友情、平和と人権を推進する
3. 女性の地位の向上を擁護し、支持する
4. 公的および私的な生活でのリーダーシップと意思決定において、女性とその知識と技術を活用することを奨励する

